JENESYS2017 シンガポール高校生派遣

(外務省 対日理解促進交流プログラム) 平成30年1月30日(火)~2月7日(水) 生徒8名と引率大谷暁子

神奈川県横須賀市立横須賀総合高等学校と本校から、生徒計17名と引率教員1名ずつがシンガポールに派遣されました。ASEAN諸国での対日理解を促進するとともに、未来を担う若者の対外発信力を養成するプログラムです。出発前は、日本の文化についてのプレゼンテーション準備を連日遅くまでがんばっていました。

- 1/30(火)10:30 に中部国際空港を出発し、16:50 にシンガポールのチャンギ国際空港に到着しました。その後、 横須賀総合高校と合流。JICE(日本国際協力センター)の大阪さん、コーディネーターの小杉さん、清 水さん、現地ガイドのアランさんにもお会いし、滞在中大変お世話になりました。
- 1/31(水)午前中は、日本国大使館の堤公使から大使館の仕事や、シンガポールについての基礎知識等をお話しいただきました。次に、JETRO(日本貿易振興機構)Singaporeへ行き、シンガポールの食を中心に文化についてお話しいただきました。
 - 一人あたりのGDPは愛知県とシンガポールが同じくらい。
 - ・7割が共働き世帯であり、外食(ホーカーズという屋台村のようなもの)をする人が多いこと。
 - ・ほとんどの人が集合住宅に住んでいる。
 - ・罰金が様々なことにかけられている国であり (ガムのポイ捨て、たばこのポイ捨てなど)、人権水準 は低いこと。
 - ・18歳の男子に兵役の義務があること。

など、興味深いお話でした。生徒たちは熱心に聞き、質問も活発に出ました。







昼食は、早速、ビジネス街の中心にあるホーカーズの「ラオ・パサ」で食事をしました。 初めて見る多国籍の料理屋台なので、生徒たちは何回もぐるぐる回って思案し、やっと注文しても「シングリッシュ」(シンガポール独特の英語)が分からず、苦労し、言ったものと違うものが出てきた人もいました。

真冬の日本から、最高気温30度以上の南国の暑さに驚き、デザートには大きなかき氷「アイス・カチャン」を注文している生徒もいました。







午後は、「旧フォード自動車工場戦争記念館」で、第2次世界大戦における、日本のシンガポール占領について学びました。他国で、旧日本軍の行ったことを学ぶのは、心苦しい経験でした。

夕方から、稲妻が光り、雷鳴もまるで竜が空を駆けめぐるような感じで、マーライオンパーク観光は 中止に。夕食は、シンガポール名物「チキンライス」を食べました。







2/1 (木) Dunman High School 訪問。(中華系の中高一貫校)

朝、子どもを送る保護者の高級車が学校の前に列をなし、道路が渋滞しているのにまず驚きました。 朝礼から参加し、生徒全員で「宣誓」をしているのが印象的でした。

午前中は、授業に参加し、昼は学校内の Canteen でバディと一緒に食べました。Canteen もホーカーズと同じ形で、多国籍の料理店が数種類ありました。店のおじさんによると、生徒たちは朝と昼の2回ここで食事をする子が多いので、安く提供しているとのことでした。野菜とお肉がいっぱいで、安くておいしかったです。

午後は、いよいよ、準備を重ねてきた、日本文化についてのプレゼンテーションです。

横須賀総合高校・・・「日本の四季・横須賀の紹介」「日本の防災についての寸劇」

津島高校・・・「日本の四季と祭り・津島高校の紹介」

春(ひな祭りと子どもの日)、夏(尾張津島天王祭り、盆踊り)

秋(季節の食べ物)、 冬(雪、大晦日、おせち)

津島高校の行事の紹介

「日本のポップカルチャー」

ドラえもん、ゆるキャラ、サンリオ、きゃり一ぱみゅぱみゅ

盆踊りときゃり一ぱみゅぱみゅの「にんじゃりバンバン」を披露し、Dunman の生徒たちも巻き込んで一緒に踊りました。

その後、Dunman の生徒たちがプレゼンをし、様々なゲームを用意していてくれて、楽しく交流することができました。

この学校は、中華系の生徒がほとんどで、生徒たちは3カ国語を操っていました。

夕食後は、明日のプレゼンに備え、今日の反省をふまえ、夜遅くまで修正と練習をがんばりました。













2/2 (金) Raffles Institution 訪問。(シンガポールの超名門男子校)

シンガポールの創設者 Thomas Stamford Raffles が設立した、200年余の歴史ある中高一貫校。 午前中は、授業に参加し、昼は Canteen で食事。

生徒たちの昼休み中に、ホールで横須賀が「防災寸劇」、津島が「ポップカルチャー」を発表しました。

その後、レクチャールームで「横須賀の紹介」「津島の祭り・四季」をプレゼンし、ここでも生徒 たちが盆踊りに参加してくれました。

次に、シンガポールを代表する3つの文化クラブ「中華」「マレー」「ヒンズー」のグループに分かれ、それぞれ食文化、衣服、遊びなどの紹介をしてもらい、生徒たちと交流を楽しみました。

この学校は、インド、マレー系の生徒が多いように思われました。どこの国でも男子学生は元気いっぱいでした。



















2/3(土)ホームビジット

Raffles Institution の生徒たちの家へホームビジットしました。

子どもたちだけで、町を散策したり、お宅訪問し、おやつや料理をごちそうになり、一般家庭の生活を垣間見ました。Raffles Institutionの生徒は裕福な家庭なので、メイドさんもいたようです。

2/4 (日) 午前中は、NEWater (再生水) Visitor Center で、下水を飲み水に変える工場の仕組みを学びました。シンガポールの国土は東京23区ほどの大きさしかないので、水をマレーシアに頼っていますが、何とか自国で水を確保できるようにということでした。水の精製には、日本製の濾過器が使われていました。最後に紫外線で殺菌された真水は、精密機械用の工業用水や、水が足りないときに飲料用ダムに放流するそうです。NEWater のペットボトルをおみやげにもらい、後でほかの水との飲み比べをしている生徒もいました。

午後は、チャイナタウン、リトル・インディア、アラブストリートを歩き、ヒンズー教の寺院とモスクを訪れました。ヒンズー教では、牛が神聖な動物なので、人々はミルクを体の治したいところにつけていました。(日本だと、線香の煙を同じようにしていますね)日本人の生徒たちは、賢くなるように頭につけていました!モスクでは、お祈りの時間(毎日変わる)が電光掲示板に表示されているのが印象的でした。







2/5 (月) 午前中は、シンガポール日本通運を訪問し、運輸の仕組みや、シンガポールの地の利、海外で働くことについてお話しいただきました。多国籍の人々が働く倉庫でも、日本の5 S という基準が使われていたり、AI を倉庫に導入するのは大変な資金がいるので、まだ人の手による仕事が当分の間は続くであろうというお話もありました。

午後は、明日の報告会に向けての準備をしました。今回の訪問で気付いた日本とシンガポールの違いなどを英語でパワーポイントを使って発表するので、大学生レベルの英語発表準備を短時間でやらねばならず、相当苦戦しました。





2/6 (火) 昨日の努力の結果、しっかりとした報告会になりました。期待以上の出来で、本人たちも満足そうでした。

空港には、サプライズとして Dunman のバディたちが見送りにきてくれ、再会を約束し、涙のお別れでした。

今回の派遣を通して、派遣生徒たちはひとまわり成長したように思います。アジアの貿易拠点の一つであるシンガポールについて深く学んだだけでなく、現地で実際に見聞きし体験して、草の根交流をすることができました。また、英語での発表などを通して、難しく思うことも努力し、やりきることで本当の自信につながったと思います。様々な場面でお世話になった方々に感謝し、将来は自分が人のために何かできるように成長してくれることを願っています。



